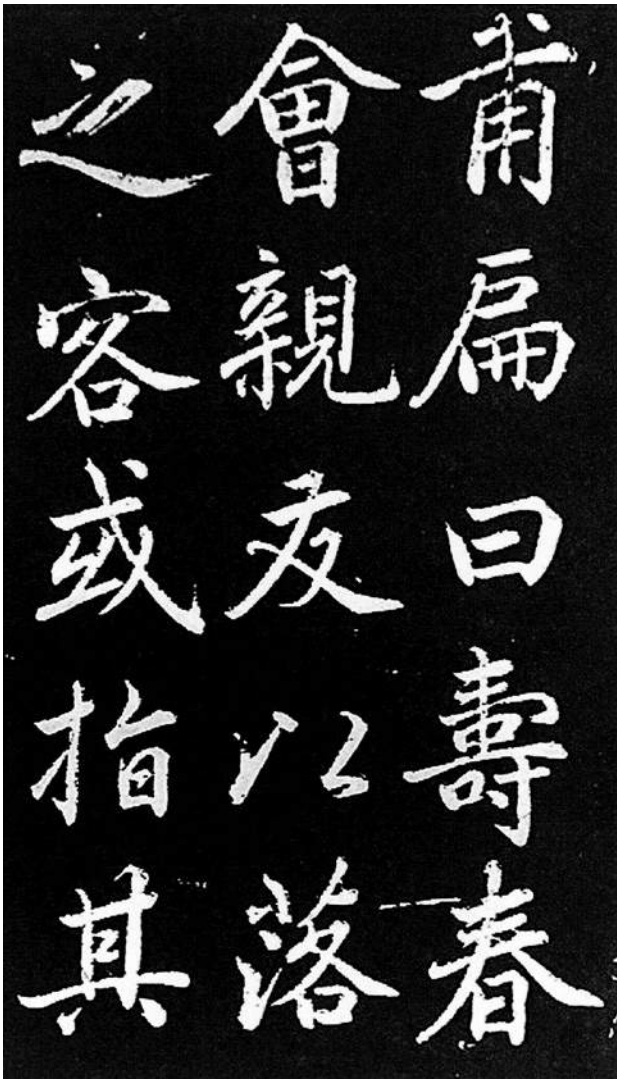
名蹟紹介



表紙紹介

顔真卿（709～785）

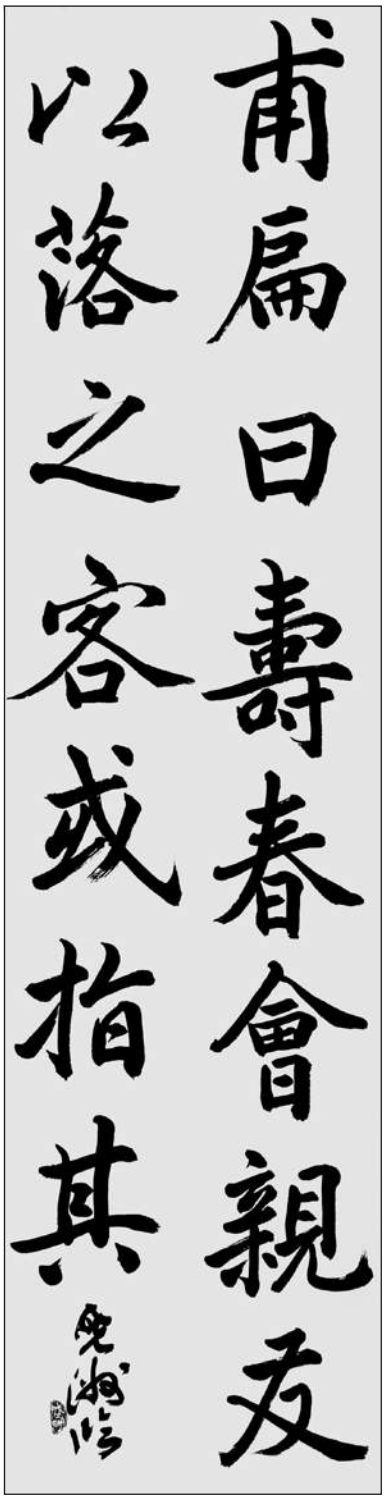
◆**祭姪文稿**（758）

「争座位文稿」「際伯文稿」とともに「顔真卿の三稿」といわれた一つ。内容は「安史の乱」で非業の死を遂げた顔季明を追悼するため記された弔文の原稿であり、塗りつぶされた34字を含め259字からなる。「稿」の字が示すとおり弔文の原稿であり、塗りつぶしや修正等の跡が見られるが、国家に忠義を尽くした顔真卿が一族を哀悼する気持ちをあらわに記した書は中華史上屈指の名書とされ、歴代の皇帝が至宝として蔵した。現在は台北の国立故宮博物館に所蔵されている。

趙孟頫（1254～1322）

書風は明時代以降も多くの書家に影響を与え、晋・唐時代の書の手引きとして重宝された。日本にも江戸時代に伝わり、文人たちに習われた。このように趙孟頫の書が広く支持されるのは、平明・柔和で美しく、癖がない書だからだろう。そのように一見平板に見える趙孟頫の書だが、その用筆は多彩を極めている。それは趙孟頫が用筆の重要性を意識していたからで、自身の蘭亭十三跋の中で「書法において用筆が最も大切である。…用筆は千古から不易である」と述べている。いかに趙孟頫が王羲之の書を規範として、その用筆に重きを置いて学んでいたかが窺える。

※6ページにも詳しく解説してあります。



甫扁曰壽春　會親友以落　之客或指其

（136×35㎝）

簡如也

（50×16㎝）

今まで同朋舎出版のものを中心に学んできたが、「寿春堂記」を楷書としてあつかわれているけれど「湖州妙厳寺記」や「大成殿記」などの方が楷書としてふさわしい気がしてならない。しかし深く追究する考えは毛頭ないので楷書としてすすめてゆく。

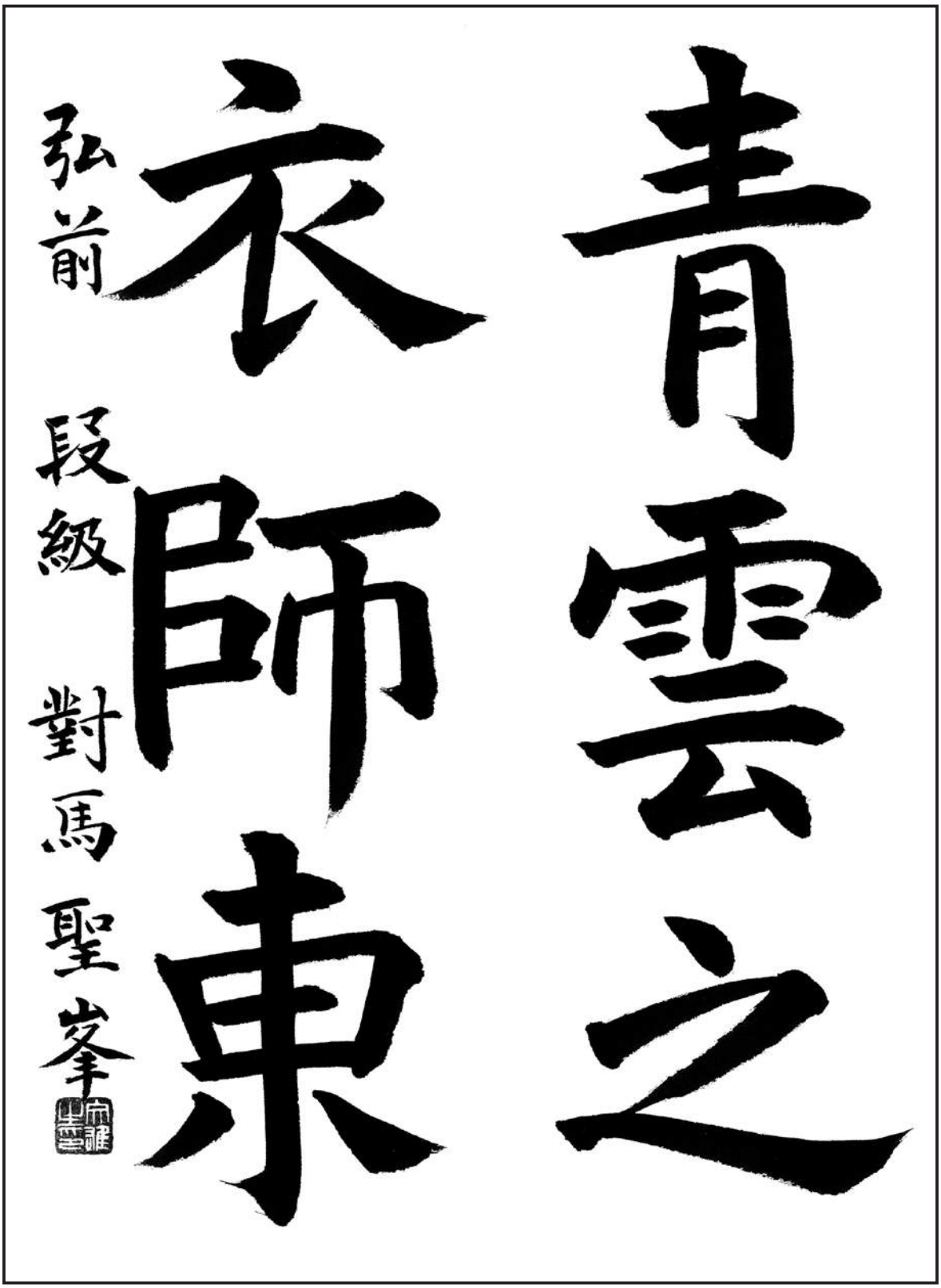
趙孟頫〈趙子昂〉（1254～1322）は「篆・隷・楷・行・草」や、中国的な価値あるものを再発見し、書と画に精密を極めた。趙孟頫の書の特徴について、長所と言えば中心に対する左右のバランス、短所は筆勢や骨力が少なく、何となく気弱さを感じさせる点であるが、結体がすなおで学んでみるべきだと思う。近年中国の書写書道教育の教科書に書聖の一人として選ばれている。

古川暁洲

4月号　　楷書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

楷書臨書課題解説

褚遂良（ちょすいりょう）　孟法師碑（もうほうしひ）

〔青〕横画の間隔を等しく、4画目を長くして字幅をとる。月は向勢に構えて伸びやかに。

〔雲〕雨を横広にして字幅をとる。3画目は伏勢にし、ゆったりと見せる。云の位置に留意し冠と杏を調和させる。

〔之〕全体に不等辺三角形にまとめる。2画目の入筆と折れの角度をしっかりとつくる。最終画のはらいは短く鋭く。

〔衣〕1画目と3・4画目の始筆が中心にくる。左右のバランスをとって下部で広がる形にまとめる。3画目左はらいは筆圧をゆるめないではらう。

〔師〕偏は横の間隔を等しく、下の口が大きくなる。旁は偏より少し下げて書きはじめる。偏と旁の主画（長い縦画）は方向を対比させる。

〔東〕日の部分は下部を引き締め、画の組み方に注意する。左右はらいは短く、位置に気を配って左右のバランスをとる。

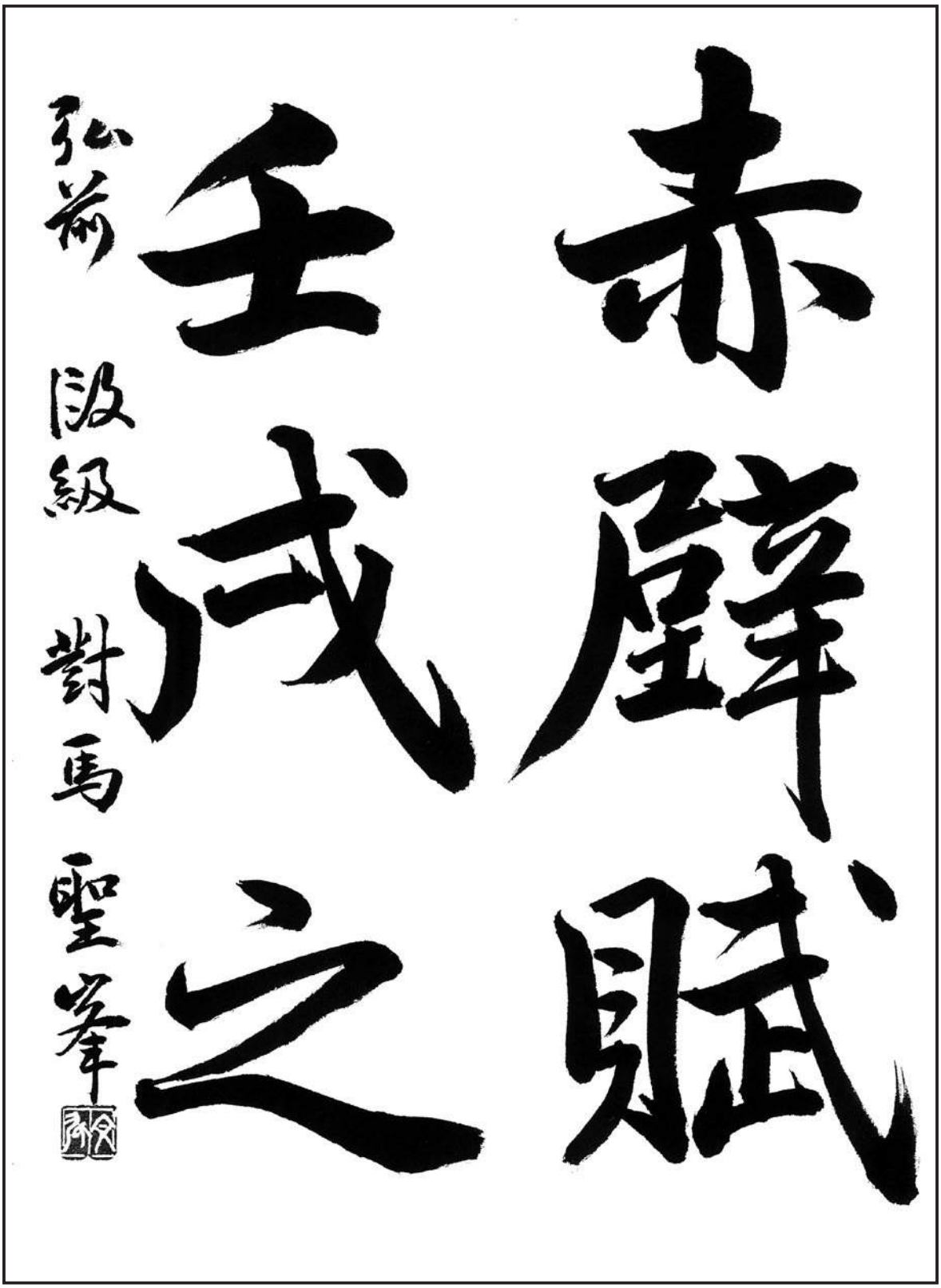
原帖

〔青雲之衣師東〕青雲の衣、東（陵を）師として…。

4月号　　行書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

行書臨書課題解説

趙孟頫　前赤壁賦

原帖

〔赤壁賦壬戌之〕赤壁賦。壬戌の

趙孟頫（1254～1322）は、南宋末に浙江に生まれ、字は子昂、号は松雪、諡は文敏、一般的には趙子昂と呼ばれている。趙孟頫が23才の時に宋が滅び、元王朝が建国される。趙孟頫は元の世祖フビライハンに抜擢されて元に仕えるが、宋の太祖の後裔である趙孟頫は、宋と元の二朝に仕える無節操な人物だと非難を受けることとなってしまう。しかし、趙孟頫は決して喜んでフビライハンの招聘に応じたのではありません。元に仕えることで、漢民族としての脈々たる伝統文化を守り、確かな形で継承しようとしたのである。

今月の課題箇所の**赤**と**壬**の文字は、どっしりと力強く書いて下さい。一画一画、線の中ほどで筆圧を十分に加えて、ただし重くならないようにご留意下さい。

4月号　　草書臨書課題（漢字半紙部）　　中井嶺暁臨

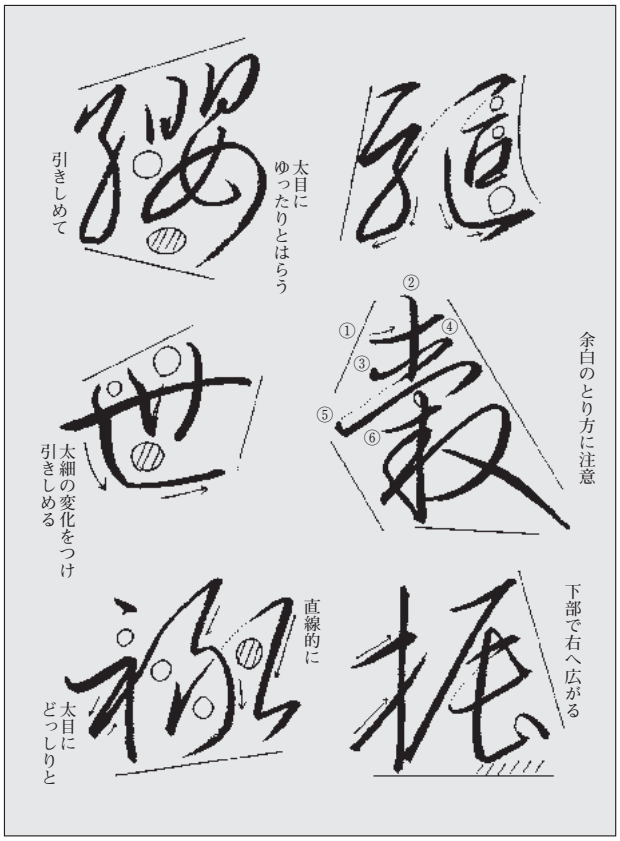
※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（旭水）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

草書臨書課題解説

智永　草書千字文



原帖

〔驅轂振纓世禄〕轂を駆り纓を振う。世禄は…

〔驅〕 偏は太目にし、右側を縦に一線に揃える。偏と旁の間の余白を広くとり、旁は横画の方向と間隔を変化させる。

〔轂〕 重心を左に置き、右下を下げて安定させる。筆順に注意（骨法参照）し、画が混み入っているので細部余白のとり方に配慮する。

〔振〕 扌は左に寄せ、3画は右上へ鋭くはらう。旁の長い斜めの画は次第に筆圧をかけ、下部は右へ広がり安定させる。

〔纓〕 偏は幅を狭く引きしめる。旁の上部2つの貝の部分の位置に留意し、女は動きを大きく、終筆は筆圧をかけ重厚な線で。

〔世〕 太目の線で小さくまとめる。特に左側を太く重心を置く。縦画始筆はしだいに右上がりにし、方向を変化させる。

〔禄〕 偏を太く力強く。旁は幅を広くとり大らかな動きを心がける。

4月号　　隷書臨書課題（漢字半紙部）　　對馬聖峰臨

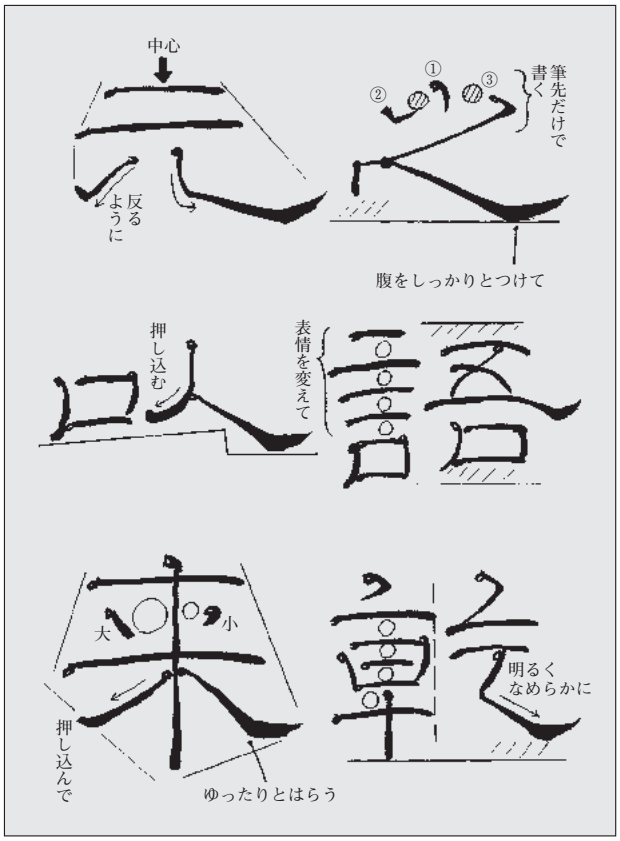
※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（旭水）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

隷書臨書課題解説

礼器碑（れいきひ）



〔之〕 上部は筆順に注意し、筆先だけで書く。最終画は徐々に筆圧をかけ、終筆は腹をしっかりつけてはらう。

〔語〕 言は左に寄せて、横画は長さ・太さ等の表情を変える。旁は上下に余白を残し、五は長い横画を柔らかく。2つの口の位置に気を配る。

〔乾〕 偏は横の間隔を均等にし、右側を縦に一線に揃える。旁は位置に留意し、バランスよく。

〔元〕 中心のとり方に気を配り、3画目は短くなるようにする。4画目はカーブして横の部分を太く強調させる。

〔以〕 配置に留意し、全体に太い線にする。左右の位置に気を配り、最終画は太く重厚な線ではらう。

〔来〕 左側を広く、右側を控えて、左右に変化をつける。6画目終筆は押し込んで止める。右はらいはゆったりと。

原帖

〔之語乾元以来〕之（こ）れ語る。乾元（けんげん）以来、

4月号　　中字課題（漢字半紙部）　　津島春汀書

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※今年度より三体（楷・行・草）の手本となります。

◎19頁に部分解説があります。

使用筆（天開）・使用紙（中字用半紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

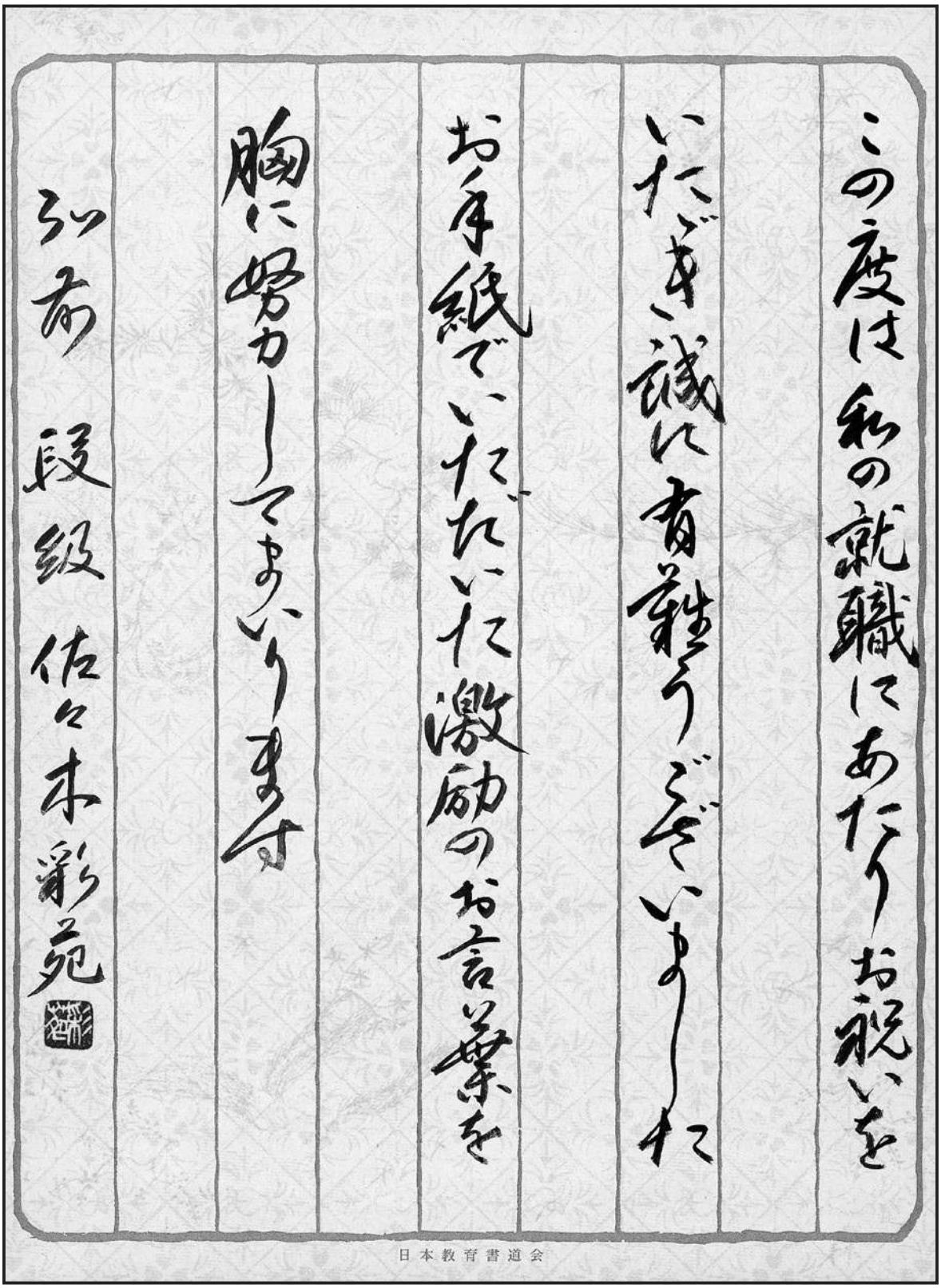
※弘前の部分には支部名を書く

4月号　調和体（漢字かな交じり文）課題　佐々木彩苑 書

※出品段級位（調和体部 新級～正師範）

◎19頁に部分解説があります。

使用筆（からまつ）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）



読み―この度は私の就職にあたりお祝いを　いたゞき誠に有難うございました
お手紙でいただいた激励のお言葉を　胸に努力してまいります

（◎印墨つぎ）

※弘前の部分には支部名を書く

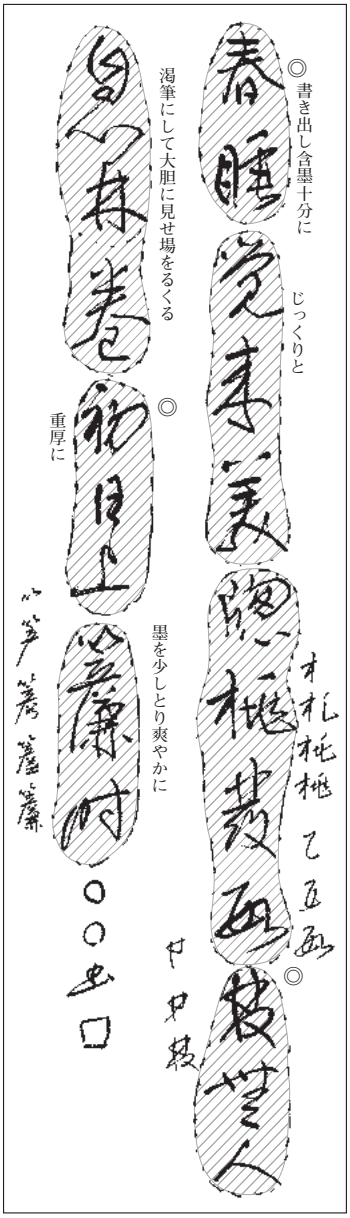
漢字条幅漢詩課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～正師範）

初学の方の条幅作品は一字一字しっかりと書かれているのですが、その一字一字がグループの中で或いは一行の中で、どのような役目を果たしているかということをあまり考えていないのではないかと思う書きぶりの作品をよく見受けます。つまり一字一字が独立して全体が極めて平凡なものとなっています。少なくとも2・3字のグループ、文字群としてのとらえ方をして、そのグループの中で今書いている文字はどんな役目を果たしているか、それを手本の中からよく読みとっていただきたいものです。文字群としてとらえられた2字なり3字は、大きさも太さも左右の余白のとり方もみな異なっている筈です。行草作品は、各文字が適当に変形されて、おもしろいポーズをとっており、この変化と統一、そして流れが大事な要素であることをよく留意していただきたいものです。

『今月の課題では、殆ど単独体で連綿表現を用いておりませんが、点線枠内では、意識の中では共有の仲間と考えて書いてみて下さい。但し字粒が均等では、単調になってしまいますので、個々の字体の造形によって大小の表現を試みて下さい。』

（『　』内は岡田契雪先生より）



使用筆（白神）・使用紙（漢字条幅用紙半切・梅花箋）・使用墨（頂煙翰墨自在〈固型〉）

岡田契雪先生書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

〔◎春睡覺來美　牕桃發數枝◎　無人自開卷　初日上簾時〕洪亮吉（◎印は墨つぎ）

読み―春睡覚め来れば美なり、牕桃数枝を発く。人の自ら巻を開く無し、初日簾に上る時。

意味―春の睡からさめると美しく、窓の桃の枝もいくつか咲いた。書物を開けて見る人もない、日が簾を上り始めた時は。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～正師範）

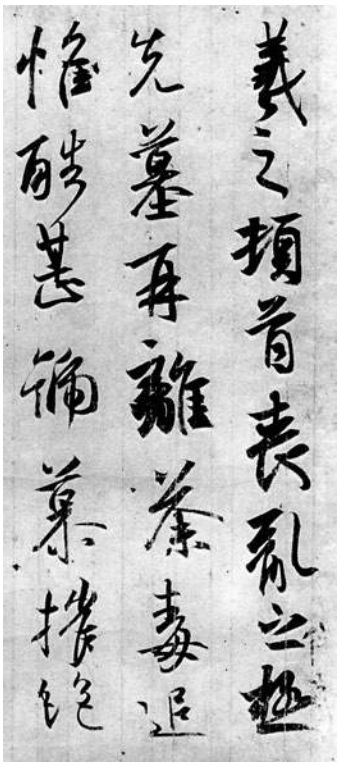
◆王羲之尺牘集

新年度もどうぞよろしくお願い致します。

今月から王羲之の尺牘集を半切版にしたものを書くことにしました。「半切版」と言ったのは、既に半紙の草書臨書課題で王羲之尺牘を取り上げたからですが、ただ今回はできるだけ行書をベースにした課題にしようと考えています。

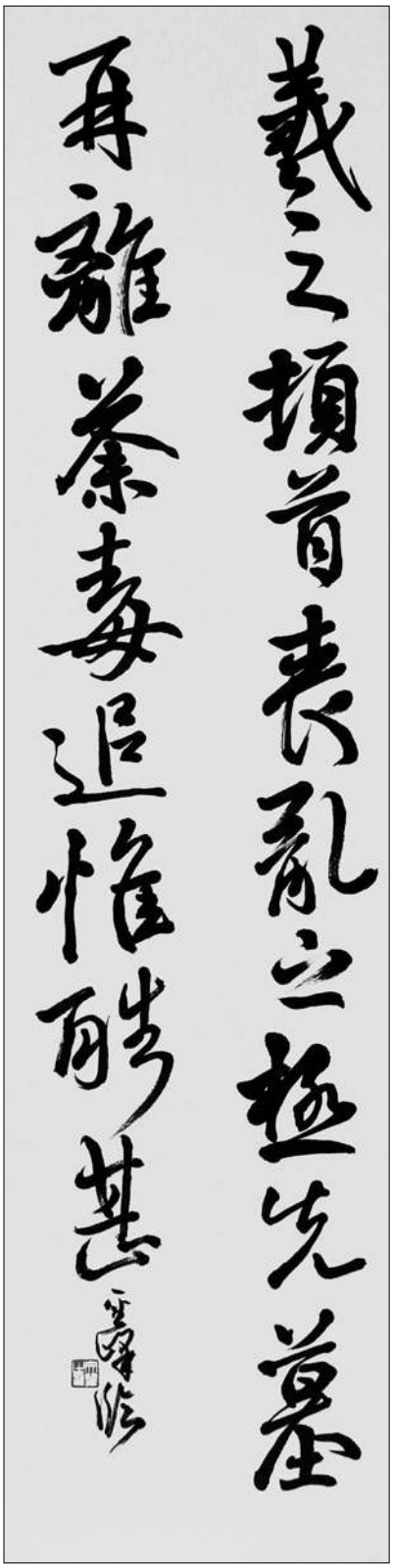
尺牘（手紙）を大切にすることは、「漢書」游俠（陳遵）伝に、「性書を善くす。人に尺牘を与うれば、主　皆な蔵去えて以て栄と為す」とあります。殊に王羲之の手紙となれば草率の間に認められたとはいえ、常に節度と調和を守りながら美的リズムに乗って書かれたことは疑うべきもないことです。当然のことながら、受け取った相手も大喜びし家宝にしたに相違ありません。

以前に小欄で触りましたが、古人の書で名品とされるものは、大部分が尺牘で、それは変化に富んだ芸術性を備えているからです。特に王羲之の書は瀟洒、瀟散と評され超脱した自然の妙味のある神品であると後世の崇敬を集めています。



義＝羲　頓＝頓　離＝離

對馬聖峰臨



半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

〔羲之頓首　喪亂之極◎　先墓再離茶毒◎　追惟酷甚〕（◎印は墨つぎ）

読み―羲之頓首。喪乱の極み、先墓再び茶毒に離る。追惟すれば酷甚だしく、

意味―羲之頓首。天下大乱のきわみ、先祖の墓がまたひどい目にあいました。追思すればあまりにひどく、

使用筆（神技北斗）・使用紙（漢字条幅用紙半切・華心箋）・使用墨（黒耀（固型））

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

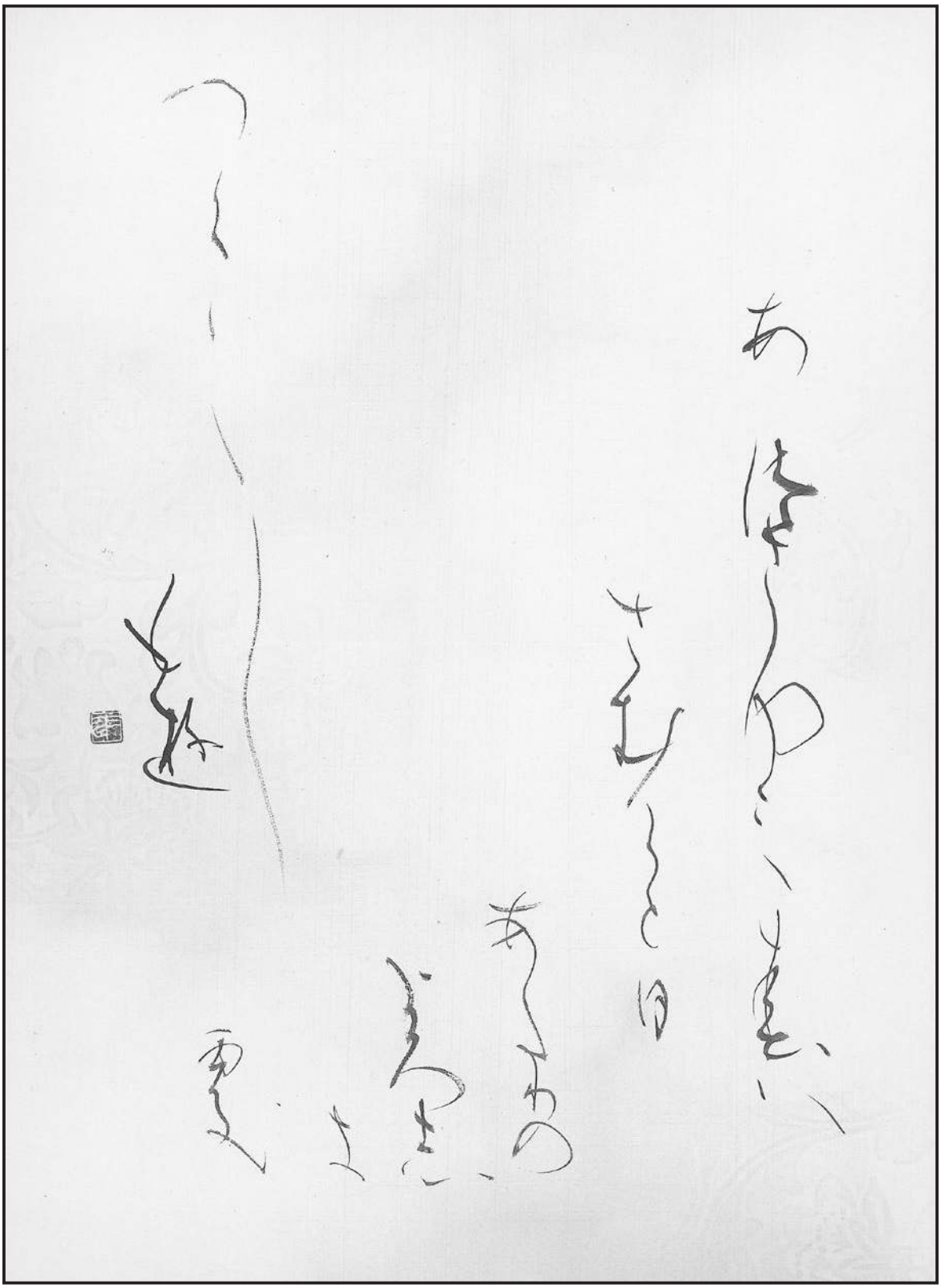
4月号　かな課題(かな半紙部)　湯川三壽先生書

※出品段級位（かな半紙部 新級～正師範）

◎あ徒さゆ三春八さむ介と日あ多利のよろ志支處つく〳〵しも遊◎（◎は墨つぎ）

使用筆(南風)・使用紙(かな用料紙)・使用墨(天衣無縫〈固型〉)

※19ページに解説があります。



読み―あづさゆみ春は寒けど日あたりのよろしき処つくづくし萌ゆ（斎藤茂吉）

意味―春はまだ寒いけれど、日あたりのよいところには、はやくも土筆が可愛らしい頭をのぞかせはじめた。

注意→支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

※出品段級位（ペン部 新級～正師範）

4月号　ペン行書課題（ペン部）　三浦景秀書

小川のせせらぎにも
草の葉の
そよぎにも
耳を傾ければ
そこに音楽がある

バイロン

支部名
学年
段級位
初めての人は新と書く
氏名

※バイロン（1788～1824）…イギリスの詩人。

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価108円

（ボールペン0.7・硬筆用紙6行使用）

※出品段級位（ペン部 新級～正師範）

4月号　ペン横書課題（ペン部）　三浦景秀書

思いは悩める
者にとって唯一の
回生剤である
トマス・ア・ケンピス

※トマス・ア・ケンピス（1379～1471）…中世の神秘思想家。

（ボールペン0.7・硬筆用紙8行使用）

支部名

段級位
初めての人は新と書く

氏名
支部名、段級位、氏名も横書きで書いて下さい

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価108円